Macローカル議事録AI 導入チェックリスト＆トラブルシュート早見表

公式LINE読者特典 ｜ 音声を1秒も外に出さない議事録自動化（whisperX + Ollama） ｜ aki studio

1. 導入前チェックリスト（始める前に全部☑）

- □ Apple Silicon搭載Mac（M1以降）である（りんごマーク →「このMacについて」で確認）
- □ メモリ16GB以上ある
- □ ディスク空き容量が12GB以上ある
- □ Homebrewがインストール済み（`brew --version` が通る）
- □ HuggingFaceのアカウントを作成した（無料・話者分離に必須）
- □ pyannote/speaker-diarization-community-1 のページで利用規約に同意した
- □ HuggingFaceのアクセストークンを発行し `~/.config/whisperx/hf_token` に保存した
- □ Ollamaは cask 版（`brew install --cask ollama-app`）で入れた（formula版はNG）
- □ 最後に `bash ~/gijiroku_local/healthcheck.sh` を実行し、5項目すべて✅ になった

🔧 **困ったら最初にこれ:** `bash ~/gijiroku_local/healthcheck.sh` を実行すると、 ffmpeg／whisperX／HFトークン／Ollama／ディスク空きの5項目を一括点検し、壊れている箇所と対処法を表示します。 macOSアップデートや `brew upgrade` の後に動かなくなったときも、まずこれです。

2. インストールで詰まったら（症状 → 原因 → 対処）

症状	原因	対処
`ollama: command not found`	Ollama.app未起動 or PATH未反映	Ollama.appを一度起動 → ターミナルを開き直す
whisperXのpip installが失敗する	Pythonが3.13以降	必ず `python3.12 -m venv` で仮想環境を作る（3.13以降は依存ライブラリ非対応）
torch関連のエラーで止まる	pipが古い	`pip install --upgrade pip` してから再実行
ffmpegエラー（dylib not found 等）	brewの他パッケージ更新でリンク切れ	`brew reinstall ffmpeg`（タップ版でなくcore版を使う）

3. 実行時のエラー早見表

症状	原因	対処
「Ollamaが起動していません」	サーバ停止中	メニューバーにラマのアイコンがあるか確認。なければOllama.appを起動
401 Unauthorized（HuggingFace）	トークン未設定・タイプミス	`cat ~/.config/whisperx/hf_token` で中身確認。前後の空白・改行に注意

403 Forbidden / gated repo	モデルの利用規約に未同意	HuggingFaceで speaker-diarization-community-1 と segmentation-3.0 の両方に同意する
処理が異常に遅い・Macが固まる	メモリ不足でスワップ発生	他の重いアプリ（ブラウザのタブ大量等）を閉じる。`WHISPERX_MODEL=small` にする
要約が途中で切れる・浅い	会議が長くコンテキスト超過	スクリプトの分割要約（9,000字単位）が動いているか確認。それでも浅ければ会議を前後半に分けて実行
要約に中国語の漢字が混ざる	qwen系モデルの癖	スクリプト内の変換テーブル（KANJI_FIX）対処済み。それ以外の字が出たらテーブルに追記
「ご視聴ありがとうございました」など言っていない文が入る	Whisperの幻覚（無音・BGM区間で定型句を捏造する仕様）	スクリプトの幻覚フィルタが自動除去（除去内容は `removed_hallucinations.diff` で確認可）。別パターンの捏造文を見つけたらフィルタの正規表現に追記
登録した人名が文中に大量に湧く	turbo系モデル＋辞書の副作用（実測で215回捏造）	モデルは `large-v3`（既定）のまま使う。turboは辞書と併用しない

4. 精度を上げる6つのコツ

コツ	内容
① 話者数を指定する	参加人数がわかっているなら `gijiroku.sh 音声.m4a 2 4` のように最小・最大を渡す（実人数±1が目安）。話者分離の精度が大きく上がる
② 固有名詞辞書を置く	実行フォルダに `glossary.txt`（1行1語で人名・社名・専門用語）を置くだけで認識がその表記に寄る。実測で登録5氏名すべて正表記化。毎回同じ会議なら使い回す
③ 話者を実名にする	一度実行して誰がSPEAKER_00かを確認したら、`SPEAKERS="SPEAKER_00=田中,SPEAKER_01=佐藤"` を付けて再実行。議事録も全文も実名表記になる。定例会議なら対応表は毎回同じになりやすい
④ マイクは部屋の中央に	話者分離は声の音響的特徴で判定する。全員から等距離だと分離しやすい。スマホ録音なら机の中央に置く
⑤ 声かぶりを減らす	同時発話の区間は分離も文字起こしも崩れる。会議の進め方の問題だが効果は一番大きい
⑥ 議事録は「初稿」と考える	ローカルAIの要約は完璧ではない。決定事項とToDoだけ人間が3分見直す運用が最も費用対効果が高い

📊 **モデル選びの実測データ（42分の実会議・M4/16GB）：**large-v3=41分・精度◎ ／ medium=34分・内容語の誤り増 ／ turbo=35分・辞書と併用不可。 処理時間の大半は話者分離側なので、**モデルを小さくしても大して速くなりません。既定のlarge-v3のままが正解**です （メモリ不足で固まる機種のみ `WHISPERX_MODEL=small`）。

💡 **豆知識:** モデル（約6GB）は議事録生成のときだけメモリに載り、数分使わないと自動で解放されます。Ollamaを常駐させてもMacは重くなりません。

5. それでも解決しないときは

このチェックリストで解決しない場合や、「そもそも構築から任せたい」という方向けに、 画面共有によるリモート構築代行（動作確認・2週間サポート込み）を承っています。 公式LINEからお気軽にご相談ください。

aki studio ｜ AI×副業の実験記録
公式LINE: https://lin.ee/vrsG2v38 ｜ Instagram: @ai_kasegu_jikken ｜ note: aki__studio